



★山本屋敷 江戸時代から残る武家屋敷

基本データ

山本屋敷は、港町にある江戸時代に建てられた紀州藩地士の邸宅で、歴史的にも文化的にも価値が高い武家屋敷です。現在は、空き家となり傷みが激しくなっています。

未来図
価値ある屋敷を後世に残すため、集客できる施設（宿泊施設・カフェ）として蘇らせる。

これまでの取り組み

◆講演会

東洋文化研究家で、各地で古民家のプロデュースに携わっておられる、アレックス・カー氏に講演していただき、山本屋敷の価値を皆さんと共有しました。

◆見学会

普段は中に入ることができない山本屋敷を開放し、実際に見てもらうことで魅力を伝えました。



◆ワークショップ

有田市の魅力・将来像をテーマに、意見交換会を開催しました。

紀州のお殿様も愛した「山本屋敷」を、市民の皆様が誇りに思えるような立派な施設としてよみがえらせることがこのプロジェクトの目的です。有田市のいわゆる「迎賓館」として、特別な日、ハレの日に利用したくなるような施設をめざしています。

山本屋敷プロジェクトチーム



まちの誇りをカタチに

西側海岸エリア★5つのプロジェクト

平成27年に策定した有田市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、市民の皆様と協働で諸施策に取り組んでいます。

そのなかで、西側海岸エリアの5つの拠点を地域資源として磨きあげるプロジェクトがあります。

このプロジェクトを通じ、まちの特徴や強みを「誇り」へとつなげていきます。

★矢櫃地区

港を見下ろす坂のまち

基本データ

約四百年前、紀州藩の初代藩主徳川頼宣公が漁師夫婦を住ませたことから始まったとされる矢櫃地区。漁業が盛んでしたが、近年は高齢化が進み、空き家も増加しています。

未来図
矢櫃の特性、風光明媚な景観や空き家を活用し、人のにぎわいを創出する。

これまでの取り組み

◆和歌山大学との住民ヒアリング

矢櫃活性化をはかる和歌山大学観光学部が矢櫃地区のお宅を一軒一軒訪問し、地区の現状把握と住民との関係づくりを行いました。

◆空き家を改修

◆DIY体験

図面おこしからスタートし、DIY体験のイベントで一般の方の協力も得ながら改修しました。



◆伝統行事の復活

約30年間途絶えていた伝統行事「お日待ち」の裸参りが復活しました。

改修した一軒の空き家を移住交流の場として活用し、矢櫃地区での暮らしを体験できるお試し居住や有田市の移住情報の発信などを行っています。

人と人が出会い、つながることによって生み出される新しい可能性をつくりだしていきたいと考えています。

矢櫃プロジェクトチーム

★地ノ島 ～海水浴場のある無人島～



地ノ島は、自然豊かで美しいビーチがあり、夏は多くの人でにぎわいますが、オフシーズンになると、観光客数がとても少なくなります。

未来図

一年を通じて多くの人を訪れ、にぎわう場所にするともに、訪れた人の心に残る「おもしろい宝島」をめざす。

今後は、平地を整備し、キャンプができるスペースをつくります。また、モニターツアー等で、魅力を広めます。

★有田みかん海道 ～海にのぞむみかんの道～

マラソンだけでなく、様々な魅力が眠っていますが、ごみの不法投棄など、管理が行き届いていない面もあります。

未来図

これまで取り上げられてこなかった魅力を掘り起こすとともに、市内外のひとに愛される環境を受け継いでいく。

今後は、サイクリングイベントや写真コンテスト等を企画するとともに、景観を守るルールづくりを検討します。



★箕島漁港 ～太刀魚日本一の漁港～



県内屈指の水揚げ量を誇る箕島漁港ですが、市内で新鮮な魚を買える常設の施設がほとんどありません。

未来図

とれたての新鮮な魚を提供できる直売所やレストラン等を作り、多くの人が集まる活気あふれる漁港にする。

今後は、現在の「とれぴち朝市」を磨きあげるとともに、直売所等の運営方法等について明確化していきます。